

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400342		
法人名	有限会社ドリームサトウ		
事業所名	グループホームもみじの里		
所在地	群馬県富岡市妙義町上高田660-1		
自己評価作成日	令和7年3月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和7年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、日本三大奇勝の一つに数えられる妙義山の東に位置し、四季折々の草花や木々に囲まれ、自然豊かな環境にあり、入居者や家族の方々に大変喜ばれています。コロナやインフルエンザ等の感染症の影響がまだ色濃く続いているので、ドライブやボランティアの慰問は縮小傾向にありますが、童謡を歌ったり昔話を語り合ったりしながら思い出に浸ることや、おやつ作りを一緒に行うことで、笑顔や楽しさを増やしています。また、先に述べたレクリエーションができない分、ゆっくりと入浴していただく時間を設け、そこでも昔話や本人の希望などを聞いて、一人ひとりに寄り添った介助ができるようにしています。現在は90歳以上の利用者が多いので、昔懐かしいおつきりこみやすいとん、おやきなどを提供したり、地域の方やご家族からいただいた採れたての野菜をふんだんに使用した料理をその人の好みや体調、食事形態に合わせて3食手作りにしています。健康管理においては、月1回の往診に加え、近隣の病院や訪問看護、事業所の看護師が医師と連携して、健康状態を定期的に確認しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

庭には季節の草花や植木がホームを囲むように植栽されている。玄関に入ると大きな窓があり、庭の花や植木、近所の様子や景色、車や人の動きが手に取るように分かる。ソファが置いてあり利用者が座って新聞を読んでいる。この場所は家族との面会や利用者が一人になれる場所にもなっており、気分転換や気持ちを落ち着かせる環境として提供されている。食事作りについては、一連の食事提供が開設以来、職員が材料から調達し3食手作りで提供されている。季節ごとの食べなれた野菜や山菜を使い、馴染みの味で提供している。居室については、その住人の個性が表れている部屋が多い。生活感があり、本人が安心できる居室環境を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を申し送りの時や会議の時に再確認し、利用者と職員が共に笑顔で落ち着きのある生活が送れるように努めている。また、ホール内にも掲示し、職員がいつでも確認できるようにしている。	開設時に先代が思いを込めた理念を継続している。コロナ禍で具現化は難しいが、地域との交流もできるようになった。利用者と職員との昔話には笑顔が見られ、理念の実践に繋がっていると管理者は感じている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、地域の人達にチラシや文章で知らせ、催し物(歌や踊り等の慰問、施設でのお祭り)の参加を呼び掛けていたが、一年を通しての感染症の影響でできていない。妙義地区文化祭に向いた際に、利用者も楽しんでいたので、様子を見つつ、少しずつ以前のようにしていきたいと考えている。	コロナ禍では地域との交流はできなかったが、5類移行後は地域の感染症の様子を見ながら、地域の人たちとのコミュニケーションや、慰問の受け入れを予定している。散歩や買い物には出かけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話相談や問い合わせ等がある際に、認知症について不安なことや心配なことがある時は、丁寧に話を聞き、相手が少しでも安心できるように話をしている。また、「分からないことや不安なことは、気兼ねなく相談してください。」と伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族には利用者のホームでの生活状況を面会時やメール、写真等で報告している。そのやりとりの中で家族も意見や希望を聞き、それを職員間で共有し、可能な範囲で反映できるようにしている。感染症の影響があり、なかなか運営推進会議を設けることができなかったが、先月開催できた。平日開催だったので、今後は参加率のことを考え、日曜日の開催を検討している。	7年2月26日から対面で開催し、市役所、民生委員、職員が出席し利用者状況等を報告している。それ以前の定期的な開催は感染症の発症時期もあり開催されていない。	今後は、定期的な開催及び家族への参加を呼びかけてはいいかがか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富岡・甘楽地域施設情報システムに空き室情報をこまめに載せると共に、市町村の窓口に出向く際、事業所の空き室状況や職員体制の現状などを伝え、相談している。その際、意見や希望を述べ、助言や指導を仰いでいる。書類や介護保険更新書類を持参し、協力関係を築くようにしている。	空き情報や利用者の入れ替わりを報告している。認定調査の立ち合いと介護保険の申請代行も希望により行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを宣言し、玄関にその内容を掲示している。申し送り時や会議、研修の時に、職員全体が身体拘束の意義を理解した上で、拘束しないケアに当たれるよう、日頃から話し合い、その方法を模索している。	身体拘束はしていない。居室のスライドドアは常時閉めてはいないが、介助時等は閉めている。外に行きたい利用者には職員と一緒に外に出て庭を散歩し、気分転換する等の支援をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について学びを深めると共に、職員全体が言葉遣いにも配慮し、行動言動を含めた虐待を起こさない施設になるよう取り組んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれが学ぶ機会を持って関係者と話し合い、必要な人が必要な制度を活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時文章を渡し、それに沿って口頭でも読み上げ説明を行い、本人及び家族に理解していただき、納得の上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いや面会に訪れた際に利用者の様子を伝え、意見や要望等を聞いている。不満や苦情、デリケートな話がある場合には、落ち着いた環境で丁寧に詳しく聞き、管理者と職員が話し合い今後の運営に反映させている。	利用者は地元の方が多い。家族とは面会時やショートメッセージで連絡を取り合い、落ち着いた過ごせるようにとの希望がある。本人はお風呂介助時等1対1になった時に話し、希望は職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝夕の申し送り時を利用して、職員から意見や要望を出してもらい、話し合いを解決している。又、申し送りノートやLINEを活用して、職員全体が共有できるようにしている。	職員とはグループLINEを使い常時連絡を取り合い、必要に応じて2～3か月に1度出勤者で会議をしている。会議時には全員の意見を聞いている。内容は利用者の状況変化の共有が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段からつぶさに職員とコミュニケーションをとり、希望や考え方を聞くようにしている。向上心を持って働くことができるような環境や条件を整えられるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議では、テーマを基に勉強会を行うようにしている。外部研修を受ける機会を確保するように努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修会に参加して、情報交換等を通じて、サービス向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は、新しい環境に不安や心細さを感じている。親身になって接することや、家族に記入していただいた利用者アセスメント記録をもとに、利用者の過去に触れた話をすることで、その不安が少しでも軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、寄り添いながらいつでも快く対応できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族が一番必要としている支援を見極め、様々な角度からのサービス利用も紹介し、ご自身に決断していただくよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の楽しみや趣味、思い出など、日々の生活を通して、喜怒哀楽を共に共有できるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の生活の様子や健康状態、心配事などを報告し、協力を仰ぎながら、一緒に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の影響もあり、面会時間の短縮や制限をかけざるを得ないが、手紙や写真、窓越しの面会など、その関係性が希薄にならないように支援している。	家族等の面会も15分だが再開できた。ラジオを聴くことや洗濯機の使用、パッチワークや毛糸での製作、新聞を読む人もいる。おやつや餃子作り、洗濯物干しやたたみ等得意な分野のお手伝いをお願いしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や工作、体操やボール遊び、ぬり絵や文字の練習、プチプチや牛乳パックのジェンガ、おやつ作り等、一人ひとりの身体状況に合わせて行うことで、利用者同士が関わり合い楽しめるような支援を務めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に悩みや心配事があれば、いつでも声をかけていただくように伝え、退所後の相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけや密に係わっていく中で、信頼関係を築き、その思いに少しでも近づけるように努めている。	ケアマネジャーが週1回訪問しており、利用者との会話を通して意向等確認している。家族からは、利用料の支払いや面会時又は電話等で希望を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、利用者本人や家族から、今までの生活や暮らし方、こだわり等を詳しく聞き取ること、家族に利用者アセスメント記録を記入していただくことで、できるだけ環境を変えないようなサービス利用に繋がるよう心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の心身状況や身体状況など、細かく観察記録し、現状の把握に努めている、利用者本人の有する力も見落とさないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人・家族の希望を基に日々の様子を把握し、(朝の申し送り時や現場職員からの報告等を通じて)検討し、介護計画をたてている。又、月末にはモニタリングを実施し、介護計画の見直しを実践している。	月に1回モニタリングを実施している。介護計画については、アセスメントと共に3ヵ月毎に見直しを行っている。又、状態変化時は随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容、気づきや工夫を細かく記録し、常に職員間で情報共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族の状況、その時々要望に応じて、職員間で話し合い、ケアの方向性を検討し、支援していけるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、社協、包括等の行政や、ボランティア、警察、消防等と必要とされる情報を共有し、利用者が安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の日々の身体状況を把握し、主治医と連携している。必要があれば訪問看護を利用し、異常の早期発見や現状維持に努めている。	契約時に協力医やかかりつけ医の説明を行い、選択してもらっている。8名が月に1回協力医の往診を受診している。眼科等の通院は基本的には家族支援である。必要時に訪問歯科も受診できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で気づいたことや利用者の状態を看護師や主治医、訪問看護に伝え、相談している。職員間の申し送りや話し合いを重視し、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、必要な情報を関係医療機関に伝える。又、退院される際には、情報共有を受け、適切な看護、介護ができるように連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の悪化や何らかの原因で食事摂取等ができなくなった段階を利用者や家族と早期の時点で話し合い、当施設でできることを伝え、希望により、看取りに向けた支援を行っている。	入居時や段階的に看取りの説明を行い、家族等の希望があり、協力医の判断で看取り支援を実践している。24時間訪問介護の契約やホームの非常勤看護師、職員で看取り支援に取り組む用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居契約時に、緊急時、事故発生時の対応等を説明し、ご家族の理解が努められるように努めている。主治医や訪問看護との連携を密にとるよう心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、火災訓練、通報訓練、避難訓練を行うことになっている。平日だと、地域の方やご家族様の参加が難しいようなので、今後は土日に行えるよう消防署と話し合っていく。今後は応急救護訓練も取り入れていく考えでいる。	土砂災害地域に指定されている。7年2月に消防署立会、家族、職員で日中想定のある総合訓練を実施。自主訓練はしていない。米・乾物・発電機・コンロ・排泄用品をローリングストックで準備している。	消防署の立ち合い訓練を参考に、利用者と職員で自主訓練を重ねてほしい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持って対応している。トイレ誘導の際や排泄に失敗した時には、言葉遣いに気をつけ、困惑や羞恥心、不安な気持ちにならないよう、気をつけて接している。	支援開始時に利用者と挨拶を交わし、サービス提供時の利用者の反応や性質、利用者同士の相性を踏まえ、できることを職員と一緒に楽しんでいる。利用者の状況変化等については職員で共有している。	異性介助になる場合には、その都度声をかけ、利用者に了解を得てほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を聞き、その思いがなるべく実現できるよう、寄り添い手を差し伸べていく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや、どのようにその日を過ごしたいかを早い内に汲み取り、利用者の意に沿った支援をしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見た目も大切と考えているので、髪のセットや散髪、爪のお手入れは大切な時間としている。洋服等も本人の希望を聞き、好きな服を着ることができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の農家さんやご家族様から差し入れていただく季節の野菜を使い、その方に適した量や好み、体調を鑑みて、職員が3食手作りをしている。時には、利用者の希望の献立にしたり、お弁当やお惣菜を取り入れている。	開設以来、季節ごとの食べなれた物を材料から調達し3食を手作りしている。行事食、おやつ等お楽しみも提供している。飲料は基本は麦茶だが、牛乳、ジュース、アクエリアス等希望や季節で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事摂取量をそれぞれチェック表にして、職員間で情報を共有しながら支援に当たっている。不足の時は、その都度、補う工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者本人にできる限り行ってもらい、難しい方には職員がサポートし、仕上げを行っている。夜は入れ歯の方は入れ歯を預かり、入れ歯洗浄剤で殺菌を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレで排泄ができるよう、日々の生活の中に、テレビ体操や手足の運動を無理の無いように音楽に合わせて行っている。個々の排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行っている。	昼間は全員トイレで排泄支援をしている。夜間は声をかけ誘導でトイレで排泄をしている。パットは、利用者に合った適切な物を使用している。汚染時は陰洗やシャワーで清潔を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄サイクルを理解し、きちんと排便を促せるよう日々の食習慣を工夫している。便秘予防としては、野菜を中心に、食物繊維を含む食事と水分摂取を心がけ、牛乳、ヨーグルト、ゼリー、プリンやフルーツデザートを提供している。排泄状況に応じた軽い運動や、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴していただけるよう、声掛けや誘導の工夫を心がけている。温浴シャワーチェア導入にて、気持ち良く、安心して入浴できるように支援している。	基本的に往診等の予定がなければ、週に2～3回、必要に応じてそれ以上、9時半からお昼までを全員(3人シャワー・5人入浴)の入浴時間としている。入浴準備を希望で服選び等をしてもらっている。	予定日以外でも入浴ができる体制を整え、その日その日で利用者が選択できる場面ととらえてはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合ったペースにて、状況に応じ休息していただいている。室内は、環境整備を行い、リネン交換を定期的に行っている。室内温度はエアコンを使用し、適温にて安眠に繋がるよう支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表にて飲み忘れなどないか、他の人に渡していないかお盆に乗せる際に確認し、配膳時にも確認をし、間違いがないように工夫を行っている。薬情報は個人ファイルに保管され、いつでも確認ができるようにしている。変化が起きた時は、看護師やかかりつけ医に相談し、指示のもと、動くようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意なことを活かし、ぬり絵、折り紙、歌やパズル、文字の練習等をしなが、家族の話や昔話をする用になっている。自然と笑顔が出て、会話が弾むよう個々に合わせた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出制限があり、それ以降は感染症が治まらない世の中にあつたので出かけられなかったが、先日、地域の文化祭に出かけダンス・踊り・歌を見に行くことができた。これからも、地域の人達とも協力しながら支援していく。	コロナ感染防止のため外出は長い間厳しかったが、7年になり、レクリエーションとしての散歩、地域の祭りへの参加、近くのコンビニへの買い物、家族との外出や外泊に出かけることができた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では、基本的にお金の所持はしていないが、個々にスーパーやコンビニ、道の駅に行き、利用者の希望に沿って少額の金額を渡し、職員が寄り添いながら買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の写真を撮り、はがきに印刷し、できる方には文字を書いていたいただき、難しい方には代筆し送付することで利用者の気持ちに寄り添えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝日の当たる玄関にはソファが置かれ、くつろぎながら四季折々の草花を眺められるようになっている。日に3度、台所から料理の香りが漂い、その日の献立を想像させられる。トイレが汚れた際には、その都度清掃を行い、臭いのない清潔なトイレを心がけている。ホールには誕生日会や行事などの日常の写真を貼ったり、季節感のある飾りや利用者の編んだ作品を飾っている。天井は吹き抜けの天窗で、明るく心地よい場になっている。	ホールは、不快な臭いもなく明るい日が差し込んでいる。椅子、テーブル、利用者の作品、日めくりカレンダー、行事の写真が掲示されている。広い玄関にも加湿器、ソファ、テーブル、お節句のお雛様が飾られ、第二の共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士の座席配置になるようにテーブル席を工夫している。ホール、玄関ソファ、居室を好きなときに好きな場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、利用者本人が愛用されていた家具、小物、好みの衣類、写真を居室に備え付けたり、使い慣れた寝具を持ち込んだりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居前まで使用していた馴染みの寝具やタンス、居室で編めるように趣味の編み物、仏壇、洋服掛けが持ち込まれている。利用者が自由に過ごせる居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には、手すりが取り付けられている。ホール内に設置している家具は、角が丸い物を選び、設置している。居室の入り口には、動物や乗り物のネームプレート、大きな文字のトイレ案内等、分かりやすいように工夫している。歩行や移動が安全にできるように、動線を考えて空間を広くとる配慮をしている。		